

# 移り変わる時代 歳をとる私 変わらない 仏の願い

人生100年時代と言われています。医療が  
進歩し、健康意識も高まり2020年の日本  
人の平均寿命は女性が87・7歳、男性が81・  
6歳です。今後、ますます医療は進歩しさら  
に健康志向も高まって、我々の寿命は100歳  
くらいまで延びると予想されています。しかし  
ながらどれだけ私たちの寿命が延びても、すべ  
ての生命のDNAの中には「死」という指令が  
組み込まれており、命あるものはけつして死を  
免れることはできません。どれだけ科学が進歩  
し生活が便利になっても生老病死という人生の  
根本の苦悩はなくなりません。その中で何を  
頼りにして生きていけばいいのでしょうか。



『歎異抄』の後序に

「煩惱具足の凡夫、火宅無常の世界は、  
よろづのこと、みなもつてそらごとたは  
ごと、まことあることなきに、ただ念  
仏のみぞまことにておはします」

現代語訳「わたくしどもはあらゆる煩惱を  
そなえた凡夫であり、この世は燃えさかる  
家のようにたちまちに移り変わる世界で  
あって、すべてはむなしくいつわりで、真実  
といえるものは何一つない。その中において、  
ただ阿弥陀如来の本願の念仏だけが真実な  
のである」

『歎異抄（現代語版）』本願寺出版社

とあります。私たちの人生において唯一あて  
頼りになるものはお念仏、「南無阿弥陀仏」で  
すよと親鸞聖人はお示しく下さいました。どれ  
だけ時代が変化しても、私が歳をとってもお念  
仏をよりどころとして生きていくのが念仏者の  
生き方です。

ここで仏教の時間のお話をします。『正信  
念仏偈』に「五劫思惟之撰受 重誓名声聞十  
方」（五劫もの長い間思惟してこの誓願を選び  
取り、名号をすべての世界に聞こえさせようと  
重ねて誓われたのである）とあり、「五劫」と  
いう言葉ができます。これは阿弥陀仏が法蔵

菩薩の時、すべてのものを救うために思惟され  
た時間の長さです。「劫」とはサンスクリット語  
の Kalpa に相当する音写で、古代インドにお  
ける最長の時間の単位です。「劫」の時間の長  
さは「磬石劫（ばんじやくこう）」もしくは「芥  
子劫（けしこう）」で説かれています。

「磬石劫（ばんじやくこう）」であわらす「劫」  
の長さは、四十里（160キロメートル）四方  
の大きな岩があつて、カーシー産の羽衣で10  
0年に一度、サーツと軽くその岩を払い、その  
摩擦によつてその大きな岩が完全になくなって  
も劫は終わつていないとされます。次に「芥子  
劫（けしこう）」とは、四十里四方の鉄城があ  
り、その中に芥子を充滿し、100年に一度、  
一粒の芥子を持ち去つて、すべての芥子がなくな  
つたとしても、まだ劫は終わつていないとされ  
ます。つまり、「劫」とは気が遠くなるような  
長い時間を表しています。億劫（おつこう）は  
1億の劫で、本来は極めて長い時間をいったので  
すが、時間が長くかかつてやりきれない意味で、  
面倒くさいことを「億劫」というようになりま  
した。

宇宙が誕生してから消滅し一切何もなくな  
るまでの時間の長さが「四劫」とされており、  
私を救うための法蔵菩薩の「五劫」思惟は、  
宇宙誕生から消滅までの長さを超えているとい  
うことになり、それほど私たちは救われたい  
存在であるということです。どれだけ時代が変  
化しても阿弥陀様からの「劫」をも遙かに超  
える、はかることの出来ない「無量寿」の願  
いはたらきがこの私に今届いています。